

第8回 京丹後市学校再配置検討委員会 会議録

- 1 開催日時 平成20年9月30日(火) 午後7時30分～午後9時05分
- 2 開催場所 京丹後市役所 峰山庁舎 2階 201.202.203会議室
- 3 出席者 高野委員長、大木副委員長、高田委員、松本委員、坪倉委員
板垣委員、小松委員、増田委員、本城委員、小牧委員、平松委員
河田委員、谷委員、藤原委員、西山委員、沼倉委員 16人
(欠席者) 荒田委員、小倉委員、平林委員、野木委員 4人
(事務局) 米田教育長、水野教育次長、高橋教育理事
栗倉教育総務課長、松井学校教育課長、山副社会教育課長
吉田文化財保護課長、谷口総括指導主事
教育総務課 数多課長補佐 坪倉主任 10人

4 議 題

- ・ 学校再配置の検討について
小学校の再配置について(弥栄町・久美浜町)
小学校・中学校の再配置の検討について(全体)

5 公開又は非公開の別

公開

6 傍聴人の数

4人

7 要 旨

《議事経緯》

(1) 開会

〈教育次長〉

皆様、こんばんは。それでは定刻になりましたので、只今から第8回京丹後市学校再配置検討委員会を開催させていただきます。本日も、荒田委員さん、小倉委員さん、平林委員さんからご欠席の通知をいただいております。また、谷委員さんにつきましては、遅刻という事でお聞きを致しております。という事で委員の半数以上の皆様の出席をいただいておりますので、会議が成立していることを確認した上で、本日の会議を始めさせていただきます。本日も会議録作成のため、皆様の力強い声をマイクに乗せてご発言を

頂きたいと思います。

それでは最初に高野委員長様、開会のご挨拶をよろしくお願い致します。

〈委員長〉

皆さん、こんばんは。本日は第8回の京丹後市の学校再配置検討委員会を開催させていただきました所、皆様お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

今回は、小学校の弥栄と久美浜が残っているだけという事でございますので、旧2町につきまして議論していただきまして、その後時間が許す限り、小学校の再配置計画のまとめに入っていきたいと思っておりますから、特にまとめの所につきましては、それぞれ一人ずつ積極的な発言を是非お願いしたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。以上でございます。

〈教育次長〉

ありがとうございました。

それでは続きまして、米田教育長からご挨拶を申し上げます。

〈教育長〉

皆さん、こんばんは。うだる様な暑さから開放されて、爽やかというより朝夕は寒さを感じるような季節になって参りました。早いもので、前回のこの検討委員会から1ヶ月が過ぎてしまいました。本日は第8回目という事で、大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。昨日、京丹後市議会9月定例会が終了致しましたが、一般質問の中にも学校再配置についての質問がございました。進行状況の質問と同時に、十分市民の意見を聞いて頂きたい、また、形式的、機械的に進めないで、地域の実態を踏まえて頂きたいというような意見が付け加えられていたと思います。私の方からは、検討分科会や学校再配置検討委員会の組織的なこと、それから委員には、子どもを持っておられるPTAの方々や、子どもの健全育成に関わっておられる方、学識経験者やまちづくりに関わっておられる方々になっていただいていること、それからまた検討分科会では、児童生徒の減少や耐震性の問題など学校や施設が抱える事情を踏まえて、旧町単位でこれからの時代に相応しい学校のあり方を、延べにすると50回を超える分科会を持っていただいていること、それから、学校再配置検討委員会では、各地区の最終報告に示された意見を基に分科会の座長さん、副座長さんにも委員となって入ってもらいながら、地域社会の新たな枠組み作り、新たなまちづくりの視点を入れて、月1回のペースで熱心に論議していただいていること、既に7回にも亘る委員会を持っていただいて、年内に答申をいただく目途がつく程までに

論議をいただいていることなどを紹介しておきました。その答申を基に教育委員会として再配置の基本計画を立てて、パブコメにもかけながら、一律的、機械的、一定基準、その枠にはめるのではなく、丁寧に対応していきたいという事で、お答えをしておきました。議員さんの多くも関心を持っておられるという事を感じておりました。本日の会議も本日は前回に引き続き、残っております2町の小学校の配置についてご検討いただくことになっております。予定通り進めば、長い間お世話になっていたこの検討会も到達点が見えてきたような気も致します。委員長さんのご挨拶にもありましたけれども、あれも言っておけば良かった、これも言っておけば良かったという事の無いように、十分意見を言い尽くしたというような気持ちになっていただけるような、今日の検討委員会になればありがたいと思っております。どうかよろしく申し上げます。

〈教育次長〉

それでは、この後議事に入らせていただきます。この後の進行を高野委員長様よろしくお願い致します。

〈委員長〉

それではお手元の次第によりまして、進めさせていただきます。

はじめに、本日の会議録署名委員の指名をさせていただきます。名簿順位18番の藤原委員さん、名簿順位19番の西山委員さんを指名しますので、よろしくお願いを致します。本日は、前回に引き続きまして小学校の再配置について検討していきたいと思っております。次第書の順に、弥栄町からこれまでの分科会の報告を踏まえまして、委員の皆様のご意見を頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

まず、弥栄町の分科会で報告をいただいたんですが、何か付け加えたいことがございましたら、どうぞ。

〈委員〉

付け加えることはあまりないんですけども、ずっと今までの話を聞いておまして、各分科会の方が言っておられるように共通の問題を持っておられると思うんです。弥栄町も同じように第1回、第2回、第3回の分科会では、小学校が無くなるとその地域が寂れるんじゃないかという事が、すごく問題となっていて、そこは一番のネックとしてあったんですけども、将来的に子どものことを考えたらどうなんだろう、適正人数という事を考えるとどうなんだろうという事を考えた場合に、やはり大人のエゴは無しにして、子ども自体の将来を本当に考えた場合に、どういう形がいいのかという所で、結局は

再配置に踏み切った方がいいんじゃないかという結論に達しました。余談になりますけれども、この前テレビで言っていたのですが、学力の一番高いのは秋田県で、一番低いのが大阪府なんだそうです。秋田県の授業内容を見ていて、ある程度人数がいて、担任の先生も2人位いて、基礎コースと応用コースに随時分かれてそれぞれ自分の適正に合った様に勉強するという様な事を見ていまして、人数が多くなればそういう事ができるんだなあという感じを受けまして、やはりある程度人数が多くないと、いろいろな取組みが出来ないという事を見させていただきまして、やはりある程度人数が多くて再配置って本当に必要なんだなあと考えた次第であります。最終的に、それでは1校にするか2校にするかはあるんですけども、2校にした場合、耐震強度とか、増築した場合、お金がどの位かかるのかという事を考えた場合、将来的に子どもの数も少なくなりますし、最終的には1校の方が経済的には良いんじゃないかというふうに、弥栄ではまとまった次第であります。1校、2校のシミュレーションをしてきた訳なんですけれども、やはり最終的には1校。それも弥栄の場合は、今鳥取小学校がございましてけれども、あそこは膨大な敷地がありますし、一番立地条件にしたらいんじゃないかなという話になりまして、教育委員会の方、どうなんでしょう。一番最初に既存の学校を使ってという事があったんですけども、耐震強度とか増築とかいう事を考えた場合に、予算的なもので、どちらがお金がかかるかという事も、そういうシミュレーション等はされたんですか。

〈教育次長〉

この検討委員会もだんだん押し詰まって参りましたので、そういったご意見、ご議論がいろいろ出てくるであろうという事を考えておりまして、事務局サイドでシミュレーションとか、いろいろな角度から試算を含めまして、それはそれとして事務的な作業を始めている所です。

〈委員〉

最終的に色々な試算をしてみて、新築をもししていただければ、それが一番良いのではないかなあと、弥栄の場合はそういう結論に達した次第であります。それは、17名の分科会の委員の総意でもありますし、そうやっていただけることが、これから子どもを育てられる親御さんにとっても一番良い方法じゃないかなあとと思います。後は通学の問題が何処の分科会でも問題になっておりますし、安全、安心という事で、それも秋田の例ではないですけども、地域に密着した学校、それがやはり学力にも良い影響を及ぼすと言われていましたし、そういう体制を早く作ってやる。やはり、1校にしてやっていく

内にいろいろ問題は出るのでしょうけれども、それをいかに地域と父兄と先生方とで早く解決して、道筋をつけてやるかが一番良い方向だと思われれます。以上です。

〈委員長〉

ありがとうございました。

他の委員さんでご意見ございましたら。

〈委員〉

弥栄の坪倉です。今分科会の副座長さんが申されましたように、私はまちづくりの方から出ておるんですが、この報告は先だってもまちづくり委員会でした。今こういうような状態だと。分科会から出ております報告、まとめられたものについては、私は大いに尊重していきたいというふうに思っております。ただ、今もちょっと出ておりました様に、弥栄町は皆さんもご承知だとは思いますが、5小学校が現在ある訳です。5校区ありまして、校区に1小学校ずつ今日まである訳です。そうしますと、その小学校が校区の大体中心になっております。全ての小学校が、通学距離から何から言いましても、そういう事を踏まえてみますと、これを既存のものにして1校にしていくという場合は、今も副座長さんが言っておられますように、通学の安全性の問題、既存の小学校を1校使って、それでは何処へその1校をもって行くかという事は、町民にとっては非常に大きな問題になるのかなと、まちづくり委員会としても、やはり何処が弥栄町の小学校、中学校というのはあくまでもその町のシンボリックなものになってくるという事ですので、今もちょっと出ておりました様に、今後の問題になろうかとも思いますが、弥栄では1校にするなら何処かへ新築が出来たらというのを、大体の町民が考えております。新築が出来ないという事になれば、何処の小学校へ行くかという事は、また町民の方々にいろんな議論があるとは思いますが、まちづくり協議会としても弥栄がこれだけ児童数が減ってくると1校が望ましいなと、現在ではそういう様な事になっております。私もそう考えます。以上です。

〈委員長〉

ありがとうございました。他にどうぞ。

〈委員〉

弥栄町さんが今言われたんですけれども、鳥取小学校で弥栄町の全児童が収容可能かどうか、教育委員会の方どうでしょうか。

〈教育長〉

人数は今調べておりますけれども、現在では無理です。しかし、平成25年度、5年程

先には、今の鳥取小学校の人数位になってしまうという事であります。

〈委員長〉

いいですか。他にありませんか。

〈委員〉

今、副座長さんと弥栄のまちづくり協議会の会長さんのお話を聞かせていただいたんですけども、弥栄の場合はわりに1校にしやすい様な要素があるのではないかと他所からは見せてもらっています。ただ、どの町でもそうですけれども、1校にする場合は必ず新築というのが皆の希望だと思うんですけども、教育委員会の方から出ております、これまでの既存の学校を利用してという様な事になってきますと、その辺が1つの大きなポイントにならへんかなと思います。通学の問題とか補強の問題、増築の問題につきましては、おそらく委員会では丸印を上げておられるのではないかなという様な気がしておりますので、出来たら今の副座長さんのご意見のような、鳥取小学校の利用の方で進めてもらった方が、京丹後市としては良いのではないかなというふうな思いです。以上です。

〈委員長〉

ありがとうございます。他にございませんか。

如何でしょうか、もう出尽くしたという事でご理解させていただいて。

〈副委員長〉

弥栄町さんはそういう形で進められたと思うんですが、校区の学校の跡地の利用という事は、それも考えていかななくてはならない。だから公民館活動だとか、いろいろな活動を活発にすることによって、地域間のいろいろなものが出てくるというふうに思いますし、だから、学校が無くなるからどうこうという議論ではなしに、学校が無くなるからこうしようという様な議論をしていかないとだめだと思います。但し、私達もそうですが、常吉の小学校の跡地を正直言って使いません。はっきり言って、学校が無くなったらグラウンドなんか殆ど使えないと、草ぼうぼうになってしまいますし、例えば管理をするのに、区だとか、公民館だとか、地域のいろいろな方々ですと、そういう様な1つ1つの努力をしていく事が大事だと思います。それと、これは教育委員会さんというより、議会等トップの方をお願いしたいのですけれども、これから交通事情だとかいろいろな問題が出てきます。うちも第一小学校が出来ているのですけれども、運動会をしようと思ったら車は皆溢れてしまうという様な事が実際出てきます。本当に道路上に車を置かなくてはならんという事ですので。先輩達が言っているように、やっぱり先の事を考えた学校づくりという

ものをしていかないと、ただ、今がこうだから、こうなんですよという議論ではなく、こういう場合の時にこう出来る様な、例えば災害だとか、色んな関係でも学校というものを使う訳ですので、そういう時に、どうすれば良いのかという様な事の中にも、私はこれからトップの方では議論して欲しいと思いますし、今、合併さえすれば良いんだというのでは無しに、将来どういう形で学校を使って行くのか、地域形成も含めてという事は、私は大事だと思います。先程東北の方の事を言われましたけれども、多いからマイナスという事は多分ないと思います。多いからプラスの方が出て来るというふうに思いますので、そのプラスを子どもたちがどう捉えて行くかという事の方が、大きい問題ではなかろうかと思っています。本当に競争し合える状況を親たちが作ってやる、これも選択肢の1つかなと思いますので、地域と一体となった学校づくりというものをどうしていくか、無くなったものは一番良く分かるんですよ。私達無くなった所ですので、その中でいい意味で学校の跡取りを頑張ってやろうと、そういう気持ちが今からはやっぱり大事かなあとって地域づくりを一生懸命して行くのが良いんじゃないかと私は思います。

〈委員長〉

ありがとうございました。

はい、どうぞ。

〈委員〉

今の大木さんの意見に反論する訳ではないですが、各小学校をそれでは残して、常吉小学校もその様ですが、誰も使うものがないと、公民館活動だとか、地域で考えてというふうな事を簡単に言っておられるんですが、これから実際に小学校の跡地、小学校という物をどう使うかというのは確かに地域が考えてやる事だと思います。けれども、その財源は誰が持つんですか。小学校を廃校にした後の修理費だとかいうものは誰が持つんですか。地域がそれを負担し、また校庭が傷んだり、大仕事になってきたという場合はそれでは何処が補修するのか、京丹後市の中でも今ずっと各町を見てもかなりの廃校が出来るんですよ。それを本当に大きな町で、子どもたちが少なくなっているんですから、大人も少ないという事です。それに学校の跡地まで守りをしると、管理をどうやってして行くかというのは、僕はいうことは綺麗な事だと思います。その通りだと思います。ところが現実には常吉小学校でも草が生えて使えないという、使う者がいないという事になる。これは何処も一緒だと思います。それは、地域がどういうふうに取り組んで行くか、やっぱりそれには財源というのが、それでは、どこが持つのか。それから廃校になった後の物

は何処の建物にしていくのか、京丹後市の物にして行くのか、京丹後市教育委員会が維持管理はして行くのかという問題も出て来る。そして、かなり建物が老朽化してきているという中で、その壊しは誰がやるんだというふうな、非常に先を考えると難しい。大木副委員長さんが言われましたけれども、中々その通りだとは思いますが、これからそれこそ育友会の総会を見ても、あまり出席しない若者が多い中で実際にそういった学校の維持、地域の活動というものがどれだけ出来るのかなと、さっきの話は疑問が持てるような気がします。以上です。

〈副委員長〉

1つだけ、反論する訳ではありませんけれども、維持や管理出来ない様になった、だから老人会の人達にゲートボールをしてもっと使って下さいよとか、そういういろいろな活動の中でやってきたという事例を言いたかったんです。ちょっと舌足らずで申し訳なかったです。そのグラウンドを使うのに、草が生えるから困るからいろんな活動を通じてやって行こうよという提案をしたという形の中で、ゲートボールだとか、グラウンドゴルフだとかというので使って、老人会が使うから草取りをしようやという雰囲気になってきたという事をちょっと言いたかったのですが。ちょっと言葉足らずで申し訳無かったです、今言われたように、学校を壊すとか壊さないとか、我々がここで議論してもなかなか難しい議論になると思いますので、一番良いのは壊してしまえば良いんですけども、しかし、ある所にいけば、その廃校を使って村おこしに頑張っているという所もありますし、財源についてはいろいろな形の中で、これから思案をして行かなければならないと思いますけれども、前向きでやって行かないと、結局地域が取り残されてしまうという事が言いたかったので、そういう考えで地域を盛り上げて行かないと、学校が無くなったからと言ってずっと引きずっていても、はっきり言って役場は構ってくれませんでしたので、実際は自分たちでやって行かなくては仕方が無いという事が言いたかっただけの事です。以上です。

〈委員長〉

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

私も前回申し上げたと思うんですが、まだ再配置をした後の学校につきましては、いずれにしても地域の災害時の中心の拠点施設になっているのではないかと思います、それはまた、防災の観点から、安心、安全の観点から京丹後市の中で当然避難所等々となって来ると思いますので、そこは大事な所でございますので、十分認識をしておいて下さいとお願いをした経過がございますので、その所はよろしくお願い致します。

よろしいでしょうか。次に最後の久美浜町へ行かせて頂きたいと思います。特に座長さんからありましたら。無かったら、皆さんに意見をお聞きしたいと思います。

〈委員〉

皆さん喋られているので、ちょっと言っておいた方が良くのかも分からないのですが、賛否両論があったという事は言わせてもらったんですが、最終的に将来の人数を考えると、やっぱり再配置は仕方がないかなというような雰囲気になったという事と、新築が良いというのは全員の気持ちだったというふうに思います。久美浜町は145km²で京丹後市の3分の1の面積がありまして、地域が広いという事からくる通学ですとか、地域性ですとか、そういう事を言われる方があったかなと思っています。私もここにおらせていただいております関係で、どういう事で、ここでまとめが出来れば分科会の皆さんに説明が出来るかなという部分を少し考えてみると、例えば久美浜だったら地域が広いという事があって、もう1つ人数が少なくなっているという根底もあって、多分その2つの問題が大きいと思うんです。私が個人的に思うのは、学校の規模として本当に京丹後市として標準的にはどれ位が適正なのかという事も1つは示したり、地域の広さにしても、人数がこれだけだったらいくら広い所から一緒に行っても良いという事では無くて、どれ位の広さ以上になったら広すぎるのではないとか、ある程度広さで抑えるような適正の規模というものもあっても良いのかなと、どちらに当てはめるのかというのが、1つの地域の適正みたいな所になって、特色のある所はその特色で抑えてもいいんですけども、そういう物がないと説明が出来ないような気がしまして、その辺で何か良い案が出ないかなというふうに思っています。

〈委員長〉

ありがとうございました。

それではどなたでも、ございませんか。

〈委員〉

今、久美浜の座長さんから、地域が広いという問題提起がございました。私も確かに本当に1校に統合してしまうとすれば、毎日200人以上の生徒の通学はいったいどうなるんだろうかと、分科会でも出てくると思います。どこに1校造るかという事によって、大きく変わってくると思うんですけども、広い範囲に1校という様な事でまちづくりの観点から考えると本当にそれが良いのだろうかあとという事を、非常に強く思います。確かにある程度の人数規模は必要だというふうに私自身も思うし、もうちょっとある程度、2

つなり3つ、そこら辺の統合で地域づくりもやり易いという事が考えられるだろうと、これは地図を見ておりましただけなのですが、2つ位に分けると丁度学校の規模としても3、4校が1つになって地域の拠点としても学校が機能して行くのではないかなと、そして生徒数も2つにすると、1つの学校が200人位になります。という事になると、まあまあ人数も確保できるという様な感じを持っているんですけども。

〈委員長〉

ありがとうございました。

他にございませんか。

〈委員〉

質問ですけれども、現在通学に使用されておりますスクールバスの子どもさんを集めた地域から学校までの距離と時間はどの位でしょうか。

〈学校教育課長〉

所要時間は分かりませんが、今一番長い距離のスクールバスは、久美浜中学校で三原の岡のほうから12km程ございます。途中拾って行きますので、所要時間までは今はっきり掴めません。特に久美浜地区は高龍中学校にしても布袋野、市野々の方からが7km、尉ヶ畑の方からが9kmございますし、弥栄中学校の野間が10km程あります。中学校の分校が無くなってきているという事で、中学校区の方で通学距離は長くなってきております。大宮で言いますと、五十河の久住の方ですが、これが9km位です。後は大体3kmから5km位のスクールバスの区間です。

〈委員長〉

ありがとうございました。

〈学校教育課長〉

今申し上げましたのは、皆さんに配布しております資料の中の資料4-1にそれぞれの通学手段と距離の一覧が出ております。

〈委員長〉

他にございませんか。

〈委員〉

今1校案が出ている訳ですけれども、確かに人数的に見ると1校にしかならないのかなと思います。もう少し何とか産んでもらって2校案にならないのかなと思います。というのは、人数を見ていきましたら平成25年に270人位ですよ。2校にしたら、40

0人位必要だと思うんです。そうすると270人だと1校で仕方ないかなあというふうに思いますが、確かに1校にした時というのは、ものすごく広い通学範囲になってくる訳です。そういう広い通学範囲になってくると、今度は中学校の場合にはクラブ活動に関係してきます。小学校の場合は良いにしても。中学に上ると、クラブ活動というものが出来ないというようになるし、また朝練でもやろうと言ったら自分で行かなくてはならない。自分で行く時には、特に交通安全上の問題もあるのではないかと思います。久美浜の皆さん、大変ご苦労様でした。苦渋の決断で、1校案で、確かに人数を見ると、1校案で仕方ないのかなと思います。

〈副委員長〉

海部地区辺りは、人口はあるんですか。町が広いんですけれども。海部と久美浜の街中と、集落の人口というのは大分久美浜の街中の方が多いんですか。

〈委員〉

面積的には広いんですが、人口は少ないですね。久美浜の場合は1区というふうに呼ばれている所ですが、やはり一番大きいです。

〈副委員長〉

海部の方が開発されているという事は無いですか。変な言い方ですけども。

〈委員〉

現在、72集落がある訳ですから、とんでもない広さで、現実的には1つにするのは難しいかなと思います。

〈委員〉

1校というのは、僕らが行っていた久美浜高校が1校で、高校は1校という事で前回言った様にそういうイメージになってしまうのですけれども、高校生は自分で何処でも行けるのでいいんですけれども、小学生が1校という事になると、今丁度校区を出たらだめだと言って良いくらいの校区なんでいいんですけれども、友達が出来て、友達の家には自分で遊びに行けませんよね、友達の家遊びに行くにも送り迎えが必要になってくると思うんですけれども。1校にしたら、人数は良くても、広すぎるんじゃないかなと私は思っているんです。それを人数で全て括るんだったら、そうになってしまうんですけれども。その辺が、事故の事もあって、通学で本当に安全ですと言える所って無いんです。必ず何処かが切れているので、私も確認しなければならいんですけれども、見守り隊とかで、お爺ちゃんお婆ちゃんにお願いして毎日交代で付いてもらってという事もやって、今の最長

で3km位の通学で何とか出来るかなという事をやっているんです。それが全部で1校となったら、全ての道に置けない、もうしなくて良いという事になりますよね。車かバスでないと通えないような、そんなことでいいのかなと思ってしまうんですけども。

〈委員長〉

ありがとうございました。

久美浜について、よろしいでしょうか、皆さん。

では、これで久美浜町につきまして終わらせていただきまして、次は小学校のまとめという事でございますので、委員の皆様それぞれ、お一人お一人発言をお願いしたいと思っておりますので、どなたからでも結構でございますので、よろしくお願い致します。

〈委員〉

課題ばかり残ったかなと思います。1つは跡地利用の問題です。跡地利用というのは、当然まちづくりが中心になって考えていかなければいけない、こういう事ですから、そういう重荷が我々まちづくりの方にかかってきたなど、これから我々の課題の1つだろうなというふうに思います。それから、私が心配する事ではないんですが、この結果を教育委員会の方できちっと整理してもらって、教育委員会としての考え方を出される様ですけども、その中で我々がこう言ったので、ああなった、こうなったという事になると思うんですけども、問題は地域の皆さんにどうコンセンサスを取って行くかというものすごく大きな課題というのが今度は課せられてきたのかなと、だから教育委員会の皆さん大変でございますが、そのようなものも斟酌させていただいて、一つよろしくお願い致します。

〈委員〉

私が一番思うのは、通学路の確保、如何に安全に通学路の確保をしてやるかという事が、今各学区で通学していますからそんなに気にはならないんですけども、1校にした場合、送迎のバスを利用するにしても、徒歩で通学するにしても、通学路の確保を如何に、ご父兄の方に安心して、それなら大丈夫だというふうに納得出来るようにしてあげる事が出来るかが一番の課題だと思うんです。別に小学校が何処に行こうが、子どもたちはすぐに慣れると思いますし、親御さんもそんなに、困ったなというふには感じられないと思います。やはり、交通とか事故の無い様に、万が一1校になって通学途中で事故にでも遭ったら、それ見たことかと言った様なふうにならないように、万全を期して整備して頂きたいと思っておりますし、そこが一番のポイントだと思います。

〈委員長〉

どなたでも結構です。

〈委員〉

各町の状況を見ていると、1つは1校にまとめるべきだという所が、峰山、弥栄、久美浜であったという事ですね。大宮についてはもう再編が一応終わっているので現状維持でいいのではないかと、丹後町、網野町につきましては2校ないし3校という様な所で大体線が出てきているのが各分科会の状況となっているのではという様に思う訳です。1つ大宮町の例を取りますと、再編が終わった、そして第三小なんかを見ると今でいう再編の対象になるような人数である訳です。でもそれも地域の特性というか、そういうのがあって残して行くべきだという様な大宮町としての結論を出されているんですね。そうして考えてみました場合に、私はただ単に人数で割切ることが、何か人数が非常に少なくなるので仕方が無いという事で支配的になる事をちょっと恐れる訳です。先程から出ています様に、通学の問題等、或いは地域の色々な拠点、学校が地域づくりの拠点になるという様な考え方、そういった物を取り入れながら、やはり再編を考えて行くべきだろうという様に思います。そういう中で考えるなら、例えば網野町なら橘学区と網野学区と、橘でも100人位いる訳ですし、地域的にも峠とかで離れている所についてはやっぱり2校という様な感じで再編を図って行くべきで、前回の会でも申し上げましたけれども、学校が複式学級になって集団生活が上手く行かないという様な所は止むを得ないと思うんですけれども、そうで無い所については、先程言った様な人数だけで割切るという様な事は止めて頂きたいなという様に私自身は思っています。

〈委員長〉

ありがとうございました。どうぞ。

〈委員〉

峰山なんかでも、とにかく特色ある学校をモデル校として作りたいという気持ちがある訳なんですけれども、現在の学校配置図の絵を見ておきまして、少し荒っぽい考え方をさせていただきますと、今の中学校の配置図、これがこれからの小学校の配置図じゃないのかなと。例えば先程、僕も久美浜についてそんなに詳しく見てはいなかったんですけども、佐濃小、川上小、海部小学校、高龍中学校、高龍中学校が例えば小学校になって、久美中に統合されるのかなと、こういう形でもある程度既存の所で使える部分があるとすれば、それも1つ、小学校、中学校、その校舎が使えるとか使えないとか、我々素人ですので分かりませんが、大宮は第一、第二、第三とありますけれども、これもそのうち

第一、第二小になるでしょうし、網野も橘中があり、或いは丹後町も2つの中学校、これが何か小学校がこれからこうなってくるのかななんて、先程久美浜を見せていただく中でそんな気がしています。地域的にも小学校のエリアを見て行くと、地域的にはやっぱりそんな物なのかなと、皆さんどういうふうに思われるか分かりませんが、先程久美浜を見たら、何かそういうふうに、まとめでは無いですが、こういう部分も視点の中の1つに入れながら、やれない物なのかなと思っております。以上です。

〈委員長〉

ありがとうございました。

〈教育次長〉

以前にお配りしました再配置のイメージ図について、先程から久美浜町の例が出ておりますけれども、久美浜町の分科会のまとめとしてイメージ図に落とさせていただきましたのは、3つのプランがございましたですね。1つは小中一貫校という考え方、もう1つは、2校案で2校への再配置、3つ目のプランは現状維持、こういう事だったと思います。それから先程のご議論を聞いておまして、人数によってかなり強引に1校に取りまとめるという事には大変無理があるというふうに思っていますし、そうなりますと例えば久美浜町の場合、非常に広大な地域に集落が点在しているという事を考えますと、仮に1校に統合するという事が、半面非常に広い地域から非常に多くの通学時間を要して、非常に多くの運搬手段を尽くして1校に登下校していただくという結果になろうかと思いますが、これはこれで新たな問題が起きるか感じております。つまり、通学時間は出来るだけ短い方が良いと思いますし、もちろん登下校は出来るだけ安全な条件の下にという様な事を加味しながら行きますと、人数の減少という事は1つの要素としては大きな物がありますけれども、地域によりましては必ずしも人数によってだけの再配置という事だけでは非常に無理な結果になるというふうに感じております。

〈委員長〉

ありがとうございました。どうぞ。

〈委員〉

私の意見は、個人的には6町いろいろと人数だとか地域、先程久美浜の話が出ましたけれども、面積で考える所や人数で考える所やいろいろあっても良いんじゃないかと思うんですね。例えば第三小学校なんかは、6年生が3人でしたかね、3人で修学旅行に行ったという事で、丁度私もその時に京都に行く研修があったんですけども、私は何かの代表

で行かれるのかなと思いましたが、あれが修学旅行だったのかと後から聞きまして、そのようなことではやっぱり競争心も芽生えませんが、大きな所に出るのにもやっぱり大人になる為のいろんなこともクリアして行かなければならない子どもたちですので、人数で考えてもらっても良いんじゃないかと思ったりしています。それから私は久美浜出身なんですけれども、小学生の足で6 km、7 km歩くのはとても大変だと思うんですね。また、地域のボランティアの方が歩いて毎日通っていただくというのもご苦労な話なんですけれども、そういうふうにしていただけるとありがたいですけど、農業中心の久美浜でもありますし、大変じゃないかと思うんですね。そういう所もまた、地域性といえますか、面積で考えていただいたり、いろいろあっても良いんじゃないかななんて思います。また、峰山なんかですと、区域的にもわりと久美浜からすると狭くて平坦な所ですし、歩いて来るといのは無理があるかも知れませんが、距離をずっと見ますと、小学生は4 kmでしたかね、町の真中にもっていけば大体クリアできると勝手に思っています。

〈委員長〉

ありがとうございました。

〈委員〉

丹後町の場合と、網野町の場合と殆どよく似た地形でございますけれども、丹後町の場合で言いますと、宇川地区へ行くのに、本当に峠がありまして、今までからずっと言っているんですけれども、統合するという事は、トンネルを越えたり峠を越えて通学するので難しいことだなあと僕は思っております。やはり、先程増田委員さんの意見にもございましたが、人数だけで統合することは非常に好ましくないとも私もそのように思います。人数だけでいうと、丹後町の場合は殆ど少ないので1校にしても良いような人数母体になりますけれども、そうではなく地域の事を考えると、色々な所があっても良いんじゃないかなと、私はそういうふうに思います。地域の活性化という事を考えると、やはり今後10年、20年を考えると色々な所に学校があつて、そこの学校を中心として発展するという事ですので、1校にするという所もありますけれども、やはり1校にすると通学手段がものすごい問題になりますし、行くだけで1時間とかかかると、勉強をしようにも熱が入らないというふうに思いますので、先程もありましたけれども、短時間で学校に行っていて、通学する時も例えば見守り隊とか、そういう方々が外に出てきていただいたりとか、そういう姿が一番理想的ではないかなと、私はそういうふうに思います。

〈委員長〉

ありがとうございます。

はい、どうぞ。

〈委員〉

網野町です。網野町では、基本的に子どもたちは歩いて学校に通うのが良いのではないかっていう様な意見が出たかと思うんですけども、通学バスを使う事になると、歩くという事が無くなるんですね。それで、何かのデータで、今の小学生は運動量が足りていない、歩く量がかなり減っているという問題が出ているそうですが、通学バスを使うことになると更にまた歩く事が減ってしまうのではないかと思うので、バスを利用したりだとか、何かの方法で移動するという事になった場合、それはそれで仕方ないのですが、他に子どもたちが運動できる事、歩ける事を考えて行く事も必要ではないかなと思いました。それと、ちょっと的を外れます。何でも意見は出して良いという事なので出させてもらいますが、新築、増築に関わらず前回の会合の時に荒田さんが仰っていましたが、私も木造が良いと思うんです。ちょっと先走った考え方ではありますが、木造にして頂きたいなと思います。今子どもたちはとても落ち着きが無くなってきていて、先生の話落ち着いて聞けない、どこかが動いている、目を見て聞けないという様な状態が起こっています。去年テレビを見ていましたら、鉄筋よりも木造の方が、子どもを落ち着かせる、木からそういう性質のものが出るらしいんです。何がしているのかちょっと分かりませんが、それが100年以上経っても変わらないという事らしいんです。だから、今古い木造の建物はいっぱいありますが、そういう所で生活している子どもたちは鉄筋の建物と比べると比較的落ち着いている。学校の校舎も子どもを比較した場合、木造の学校の子どもたちは落ち着いているっていう結果が出たそうです。鉄筋がだめという意見ではないんですが、出来るだけ木をいっぱい使って頂きたいと思っっているんですし、いじめや不登校の無い心の安定した子どもたちを育てられる学校というのは、特色のある学校というのもとても大事なんですけども、そういう事のない学校というのも大事と思っっていて、去年、1年半か2年位前の何かの冊子で、それが何かも覚えていないんですが、全国の中でも京都が、京都の中でも京丹後市が、更には京丹後市の中でも網野町が不登校が一番多いという事が書いてありました。原因もある訳で、自殺も多い所という様な事で有名になってしまって、嫌な感じなんですけど、そういう事も含めて子どもたちの安定した心を育てられる学校づくり、校長先生が中心となった先生方のチームワーク、それが子どもたちを安定させ、安心させ、そしていい学校づくりに結びついていくのではないかなと思えるんですけども。ちょっと

まとまりのない話ですみません。

〈委員長〉

ありがとうございました。他にございませんか。

〈委員〉

先程久美浜町の再配置のことで、西山委員さんが申し上げた通りなんですけれども、久美浜町も2校案、3校案とあった中で、最終的には1校、小中一貫という事が良いんじゃないかというふうな、それは何が良くてという事ではなくて、広い範囲の中で中学校が1校になって通学手段にバスを使う場合に、小学校も一緒にそこで通学した方が良いのではないとか言った意見もあったように思います。確かに人数的な縛りで統合する事はそれがベストだとは思いませんけれども、ある程度の人数は無いと先程言われたように何かにつけてやはり応用が利かないというのか、子ども自身の心も切磋琢磨したり、可愛い可愛いで大きくなるのではなくて、時には泣かされたり、子どもは子ども社会の中で揉まれ、その中で自分も考える所があって成長していくのではないかなと私は思うんです。それにやはり不登校が多いというのは、その子はコミュニケーションの取りにくい子どもではないかと思うんです。今は核家族で大きくなって、誰にも大事にされて、集団の中で自分の意見が通らないとか、考えが違ったというだけで周りの方とのコミュニケーションが取れなかったりするという事も、やっぱり最近不登校が増えている中での1つの要因になっているのではないかなと思います。確かに学校を統合する事は難しい事ですけども、親としては良い環境で子どもを学習させてやりたい。確かに地域性の事や、学校跡地の事、色々な問題もありますが、それはさて置いて、とにかく子どもにとって環境の整った良い学校という所で教育させる為なら親は努力を惜しまないというのか、努力を惜しまないという言い方もおかしいんですけども、やっぱりそういう良い所で教育が受けられるならいろんな面での協力は得られてくると思うんです。見守り隊の事にしても、バスが家から学校まで送り迎えするのではなく、バス停から家に帰るまでの距離というのも、いろいろ格差が出てくるでしょうし、その取組みについても学校の再配置が決まってからの諸々の問題であって、まずは、やはり子どもにとって何が良い環境なのか、良い学校なのかという事を考えて行きたいなというふうに思いました。ちょっと意見がまとまりませんけれども。

〈委員長〉

ありがとうございました。他にございませんか。

〈委員〉

この再配置検討委員会、それから分科会の意見をいずれにしましても教育委員会が最終的には取りまとめという事になろうかと思うんですが、そういった中で検討委員会、分科会の意見を尊重しながらやっていただくという事をお願いしておきたいです。それともう1つは、どっちにしても再配置を何時からされるのか分かりませんが、その前に先程もありました弥栄を1校という話が出ておりましたが、増改築をやらないと入れないという問題があります。非常にこれも財政的に弥栄だけでなく、やはり1校に統合するという事は施設整備して行かなければ行けないという事で、おそらく僕はこういった検討委員会、それから先で教育委員会で考えていただく計画そのものが弥栄の場合でも、取り敢えずは2校で出発しないと出来ないかなと、財政がどれだけあって、何処まで着々とその事が進むか分かりませんが、私の言いたいのは、この委員会からの意見は、取り敢えず小学校の統廃合について分科会の意見を十分に尊重していただいて、そして最終的に財政的に困難な場合は2校、1校という場合でも地域的に2校にしていかなければ仕方がないのかなというような感じも受けておりますので、その辺も十分今後検討していただいて進めて頂きたいなというふうに感じております。

〈委員長〉

ありがとうございました。

〈教育次長〉

今日は第8回目の検討委員会という事ですけども、教育委員会が原案を立てるその前のプロセスとしまして、この検討委員会の検討のまとめとしての答申をいただきますので、そこには今日までの分科会でのご論議、それから検討委員会での度重ねてのご論議、その中身を反映したものとしまして答申をいただくという事で、その後それを受けて教育委員会で原案を作るという手筈になりますので、ご理解いただいていることと思いますけれども、皆様のご意見を反映したご答申をまずいただくという事になっておりますのでよろしくお願い致します。

〈委員長〉

他にありませんか。

いろいろとまとめをする段階に近づきかけておる訳ですが、他の市町村の統廃合等、或いは京都全体の統廃合等についても、いろいろ新聞等で書かれている訳ですが、いずれにしてもそんなに既存の施設でという事を超えてというのはどうかという事もあるかと思えます。例えば中学だと1クラス20人から30人で、30人を下回った時点でいわゆる

再配置計画を立てて、そして20人を下回る寸前位にはそれを完了する。それから、例えば小学校が1クラス12人から20人という事にして、20人を下回った時点で再配置計画を立てて、20人から12人になるまでに、同じように計画を立てて実施するという様な事を考えると、学校の規模が中学校では90人、小学校では120人、こんな規模になるんだろうと思いますが、それと併せて一番気になる事は、複式学級を実施している所は、やはり地域の方々が多く早くという希望がある所もありますので、複式学級をやっている所は早急に再配置計画をして欲しいという事でどうかなあと考えております。いずれにしても、やっぱり小学校の高学年から中学校というのは一番子どもさんにとって吸収力も良く、鉄は熱いうちに打てというように一番一生懸命頑張ってもらって、より良い学校の教育というものを十分実施できる形に出来たらと考えております。それから、通学方法もいろいろ議論があったり、心配をされているようですが、全国的にというのか、この辺の答申等をしている所等を見ますと、大体中学校で6kmを超えた所、或いは小学校で4kmを超えた所という事ですが、やはりこの丹後では、冬期の12月15日から3月15日の3ヶ月間というのは、かなり雪の問題があると思いますので、その辺は中学校の6kmを4kmにするとか、小学校の4kmを2kmにするとかという様な形で冬期の対応をされるという様な事も、1つの丹後らしさと言いますか、そんな思いがあります。それから、通学の安全対策という事で、地域のボランティアも含めて大変頑張ってもらっているのですが、最近は夕刻等々見ますと沢山の方が散歩されている様ですが、可能な限り、例えば3時から5時の子どもたちが帰る時間帯に、散歩される方にはこぞって散歩をお願いしたりという様な事も必要だろうと思いますし、地域のコンセンサスを得るという意味では小規模校と大規模校のメリット、デメリットを可能な限り出していただいて、アンケートもしていただいて、やっぱりこういう学校でないといけないのかな、こういう学校で子どもは学ばすべきだという事が十分に分かるような手立てが必要かなという様な思いもしております。分科会の方で、1校、1校と言っているのですが、そんなに簡単に学校が建つ訳では無いだろうし、そんなに無理をして、例えば久美浜の様に広い所を1つというのも無理があるでしょうから、その段階に応じた形で適切な再配置計画を立てて実施をしていただくという様な事を、今までの意見を聞いたり他所の再配置計画等々を見せていただいたりすると、その様な所がある訳でございますが、国の方も中央教育審議会の作業部会で来年夏に結論をまとめるという事ですので、その辺もかなり今回の実施にあたっての配慮事項になるんだろうと思ったりもしています。それと検討分科会の委員さんが119人お

られて、私は保護者の意見を一番重要視すべきではないかという事を教育委員会からもお聞きしている訳ですが、小中学校の保護者が119人中87人おられる様ですので、各町の分科会では保護者のご意見が汲み上げられたというか、意見を反映しているという様な感じであるのがいいだろうと思っております。もう1つご紹介させてもらおうと、7月16日の京都新聞で小中学校の統廃合を検討実施しているというのが56%という大きな見出しになっていまして、やはり住民合意というのが一番の課題であろうと言っております。中でもやっぱり統廃合はせんなんというのは分かるんだけど、中々踏み切れないという事で、学校を困難があっても統廃合して規模を維持するとしたのが一番多くて36%ですが、小規模校でも良いよと言っているのが同数の35%ある訳ですから、いきなり子どもさんの数だけでという事は難しいという気がしております。児童生徒が減少してどうにもなくなってしまうからというのではなく、そういう事を見越してという様な事も書いてありますので、そんな所も十分配慮事項になるのかなと思っております。

意見ございますか。

〈教育次長〉

委員長、中学校の問題でも、もし何かご意見がありましたら。

〈委員長〉

もう少し時間がある様ですので、中学校のまとめの方で特にご意見がございましたら、委員の方お願いします。

特にございませんか。中学校は2校あるのが3町でございますので。

小中取りまとめて、何でもという事でございませんか。

〈委員〉

失礼します。中学校ですが、1回全体で議論した中で何処の町も1校、但し網野地区だけが2校。丹後町は、宇川中学校は人数の規模が少なすぎてクラブ活動の面等いろいろな面で学校として成り立たなければきちっとやっていくのは難しいので、私は通学手段を考えながら統合せざるを得ないというふうに考えております。あと5年後にはもう30数人になる訳です。網野町の場合は、網野の分科会の方から出ておりますように、現在の生徒数であればまだ出来ると、しかしそれがあがる程度減少していくと1校でも止むを得ないという様な答申をいただいておりますので、そういう方向で考えて行くと、基本的な考え方としては、各町1校ずつだという事になって行くのではないかなという様に考えております。

〈委員〉

丹後町の中学校ですが、中学校は間人中学校も宇川中学校も土石流の指定になっていて、2校ともすごく危ない所なんです。人数的に見たら、先程から言われているように5年とか10年先には無理な状態になるんですけれども、出来ましたらどちらの学校も危ないというふうになっておりますので、何処かに新しい学校を建てていただいてそこに両方共行っていただくと、その場所は間人であろうと宇川であろうとどちらでも私は結構だろうと思いますけれども、分科会では町の真中地くらいがいいのではないかというふうにまとめましたけれども、将来的にも危ない所へ行っていただくというのはすごく問題があるというふうに思います。

〈委員長〉

ありがとうございました。

〈委員〉

すみません。さっき教育委員会の方に通学バスの距離と時間のことをお尋ねしたんですけど、距離の話は聞かせていただきましたが時間は分からないという事でした。これから検討されるのには距離よりも時間の方を基本にされた方が良いのではないかという思いがちょっと思いました。

〈委員長〉

到着の時間を決めて、出発の時間を決めるのでしょうか。

他にございませんか。

では、よろしいでしょうか。本日はこれで議事を終了させて頂きたいと思います。大変沢山のご議論をいただきまして、ありがとうございました。お礼申し上げたいと思います。

〈教育次長〉

それでは、大変お疲れ様でした。

ではいつものように、次回開催日、或いは今後の日程等につきましてご協議いただけたらと思います。

〈委員長〉

では、どうでしょうか。次回は、10月22日水曜日は如何でしょうか。ご都合の悪い方ありませんか。よろしいですか。

〈委員〉

次回の会議の持ち方はどうなっているのでしょうか。

〈委員長〉

今回は再度小中学校のまとめで意見をいただいております。

〈委員〉

ある程度事務局の方でまとめられて、それを元に議論する等しないと、今日と同じことをやっても進展しないし、次には答申までまとめるんですか。

〈委員長〉

まとめる位ですね。できれば12月の答申まで、あと2回の協議で終えたいと思っております。

〈委員〉

そういう事になると、なお一層そういう議論の進め方をしないとまとまらないと思います。

〈教育次長〉

ご意見を参考にさせていただきます、今日までの議論を粗々でもとりまとめをしてみたいと思います。

〈委員長〉

そうでしたら、22日という事でよろしいでしょうか。

(都合の悪い委員有り)

では、27日はどうでしょうか。よろしいですか。

では、10月27日月曜日という事で決めさせていただきますので、皆さん次回もよろしくお願いをしたいと思います。時間は7時半、場所は同じくこの場所という事で、よろしくお願います。

〈教育次長〉

それでは、長時間に亘りまして、本日も検討委員会で闊達なご論議をいただきましてありがとうございました。以上で第8回の京丹後市学校再配置検討委員会を閉じさせていただきます。閉会に際しまして、大木副委員長様、ご挨拶よろしくお願い致します。

〈副委員長〉

第8回という事で、各分科会の座長さんにおかれましては、おそらく当初いろいろな議論があっただろうというふうに思っております。とりまとめという様な段階まで来ました訳ですが、最初から意見が出ていましたようにこれが結論ではありませんし、そういう意味ではいろいろな事を考えながらの答申になって行くであろうと思います。いずれにしま

しても、やはり子どもたちが本当に安心で、安全で、素晴らしい環境で学業に専念できるような場所づくりというものは、どうしても作ってやらなければならないと思います。その為にはいろいろな人達の意見を聞いて、これが本当に一番良かろうというような配置になるように願っておりますし、これから通学等安心安全に関わる事でいろいろな所に問題が出てくるように思います。例えば、通学路の問題だとしたら教育委員会だけでは終わりませんし、各方面への、市役所内での調整という事もあるかと思いますが、おそらくそういう議論もこれから出てくると思います。教育委員会におかれましては、そういうものを議論に加えながら、どうやったら子どもたちが素晴らしい環境で勉強できるのかという一つの大きな観点を大事にして進めていただければと思います。そういう事も踏まえまして、今後皆さん方には今までの意見をまとめていただく訳ですが、皆さん方の議論をもう少しして頂き、いい答申にしたいと思いますのでよろしくお願いします。夜分大変お疲れの所、大変ご苦勞様でした。これで終わらせていただきます。

〈教育次長〉

ありがとうございました。

以上で閉会とさせていただきます。どうぞお気をつけてお帰り下さい。ありがとうございました。

〈閉会 午後9時05分〉

※次回開催日 平成20年10月27日(月)午後7時30分～(予定)

京丹後市役所 峰山庁舎 2階 201.202.203会議室